

大雨・台風対策はできていますか？

大雨・台風のシーズンとなりました。昨年は九州北部豪雨や台風18号の災害が相次いで発生。一人ひとりが正しく災害について知り、事前に備えることが重要となります。日頃から防災への意識を高め、万が一に備えましょう。

【問】防災危機管理課 ☎537・5664

危険を感じたらすぐ避難を！

局地的集中豪雨のような異常気象が発生すると、市からの避難情報が間に合わないことや、道路が冠水し避難できないことがあります。身の危険を感じたら、安全な場所へ早めに避難しましょう。ただし、外出することがかえって命に危険が及ぶような状況では、家の2階に移動するなど、命を守る避難行動をとりましょう。

大雨時でも、排水ポンプを止める場合があります

排水先の河川水位が上昇している場合など、雨水排水ポンプを一時的に停止することがあります。近くにポンプ場があっても、もしもの備えをお願いします。

防災マニュアルを活用しよう

市では、「わが家の防災マニュアル」を改定し、3月に配布しました。市指定避難所一覧などさまざまな情報を分かりやすくまとめていますので、ご家族での話し合いや地域の防災訓練などで、ぜひご活用ください。



■土砂災害から身を守りましょう
造成地や崖の付近は、大雨により地盤が緩み崩れる危険性が高い。濁り水が出る、異様なにおいがするなど、土砂災害の前兆現象が見られる場合は注意しましょう。

■災害時要配慮者への支援を
地域には、高齢者や障がいのある人など一人で避難できない人がいます。避難の際は、自身と家族の安全を確保した上で、可能な範囲で協力をお願いします。

■災害時にはペット同行避難を
まず自身の安全を確保し、避難の際はペットを連れて避難してください。ペットとの避難生活を円滑にするため、日頃からペットの健康管理やしつけをきちんとしておきましょう。

INTERVIEW | Yuji Kobayashi

当事者意識を持って防災・減災を日常化しよう

大雨・台風のリスクが高まる季節を前に、私たちはどんな心構えが必要なのでしょう。大分大学減災・復興デザイン教育研究センターのセンター次長・小林祐司さんにお話を伺いました。

小林祐司さん

大分大学工学部准教授。大分大学減災・復興デザイン教育研究センターのセンター次長を務め、学校や地域での講演やワークショップを通じ、防災教育・活動の支援を行っている。



リスクを知り、もしもに備えよう

市が今年3月に配布した“わが家の防災マニュアル”を活用し、家族が関わる場所を確認して地図上に線を引くだけでも、意識は変わるといいます。市内には、浸水深が非常に高くなると予測されている場所があるので、早期避難のイメージを持つことも必要になります。「逃げると弱い人間と思われるから」と、抵抗がある人もいるかもしれませんが、子どもたちは逃げているのに、大人が「まだ大丈夫」と逃げなかったら本末転倒です。家庭で「この場合は体育館に行く」などの約束事を決めておくといいですね。



子どもたちとのワークショップ

まずは、自分たちが住む場所のリスクを知り、家族で共有すること。そして、「私たち家族に必要なものやことは何か」をみんなで考えて準備すること。当事者意識を持ち、防災・減災について今一度、考える機会を持ってみてください。それが自分自身、そして大切な人たちの命を守るための第一歩です。

※アンダーパス…道路や線路などの下をぐり抜ける通路

対策として通学路の点検を行い、近所の人に災害時の協力をお願いするなど、それぞれのコミュニティで信頼関係を作りあげておきましょう。家庭の防災意識を底上げすることで、地域の防災力もおのずと高まっていくはずですよ。

“防災”を広く捉えると、交通事故や犯罪にも広がります。子どもを事故や犯罪から守るための活動は学校や社会を通じて日々意識されています。そこに地震や津波、風水害を落とし込み“安全安心な社会”という大きな枠組みの中で、防災・減災を日常的なものに押し上げていきたいですね。

家庭でできることからコツコツと

防災・減災の講演会などへ行くと「どんな防災グッズを準備したらいいですか？」という質問を受けることがあります。まずは、それを自分たちで考えることから始めてほしいです。お年寄りや小さな子どもがいる家庭など、必要なものや量はそれぞれ違ってきます。情報だけに頼るのではなく、自分たちのリスクを確認し、私たち家族には何が要るのかを考え、意識することがとても重要です。わが家では、一年に数回、賞味期限にかかわらず非常食をみんなで食べ、新たに補充するなどしています。

信頼関係を築いておくことが大事

昨年の九州北部豪雨や台風18号の時は、大分市でも過去まれに見る雨量が観測され、私自身もリスクが高まっているのを感じました。市内にはアンダーパス※など、洪水が発生するリスクの高い場所も多くありますが、皆さんに認識されていないのが現状です。

ほとんどの人は日々の生活が優先され、防災について考えるタイミングが少なく、災害や防災に関しては非日常的なこととして後回しになってしまうと思います。中津市耶馬溪町の土砂災害から約2カ月がたちましたが、おそらく世間の関心は薄れつつあります。風化は避けられないことですが、全国的に災害が多発しており、そうも言っていられない時代に入っています。

私は“防災・減災の日常化”という言葉を使うのですが、普段から一人ひとりがリスクについて考えることが大切です。お子さんのいる家庭であれば、集中豪雨が発生した場合の



中津市耶馬溪町の土砂災害

災害発生時の緊急連絡先

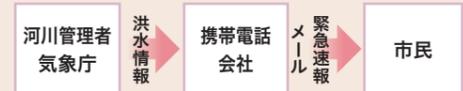
災害警戒・災害対策本部

平日 ☎534-6111
夜間・休日 ☎534-6119

災害の状況	担当課	直通電話番号
土砂崩れなどによる道路の不通	道路維持課	☎537-5674
河川の決壊、崖崩れなど	河川課	☎537-5632
ため池・農業用水路・農道の決壊など	生産振興課	☎537-5627
上下水道に関すること(水道管の破損・漏水、マンホールぶたの浮上など)	上下水道局	平日 ☎538-1211 夜間・休日 ☎538-1812

大分川・七瀬川・大野川水系で、川が氾濫する可能性がある場合、緊急速報メールを配信します

洪水情報のプッシュ型配信イメージ



【問】国土交通省大分河川国道事務所 ☎544-4167

※プッシュ型配信

受信者が要求しなくても、携帯電話会社から情報が自動で配信される仕組み。携帯電話の電源が入っていない場合や通話中などは受信できません。